

# Access Professional Edition

Video Verification



**BOSCH**

**ja**    Operation Manual



# 目次

<b>1</b>	<b>概要</b>	<b>4</b>
<b>2</b>	<b>全般</b>	<b>5</b>
2.1	ユーザーログイン	5
<b>3</b>	<b>Video Verification</b>	<b>8</b>
3.1	ビデオ確認	9
3.1.1	ビデオ確認のオン / オフ	13
<b>4</b>	<b>UL 294 要件</b>	<b>14</b>

# 1 概要

## 2 全般

### 2.1 ユーザーログイン

次のアプリケーションが利用可能です。詳細については、該当するユーザーマニュアルを参照してください。



**Personnel Management**



**Configurator**



**Logviewer**



**Map and Alarm Management**



**Video Verification**



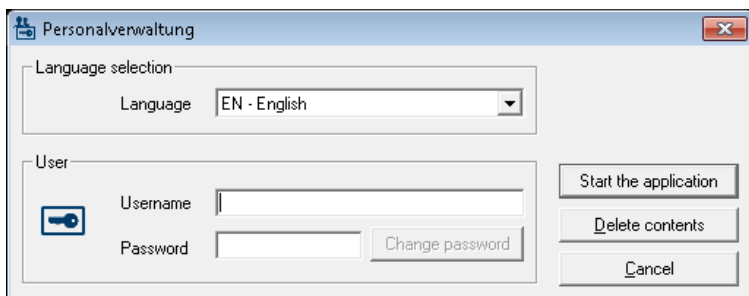
#### 注記!

クライアントからのログインは、サーバーで LAC サービスが実行されている場合のみ可能です。

クライアントのログイン

システムのアプリケーションは不正な使用から保護されています。最初の使用におけるデフォルトのパスワードは次のとおりです。

- ユーザー名 : **bosch**
- パスワード : **bosch**



ユーザー名とパスワードを入力すると、[ パスワードの変更 ] ボタンが有効になります。

誤った入力を 3 回すると、その後、しばらくしてからでないで次のログオンが行えません。これは、[ アプリケーションの起動 ] ボタンと [ パスワードの変更 ] ボタンに適用されます。

上部のドロップダウンリストを使って、希望するインタラクションの言語を選択できます。デフォルトは、アプリケーションをインストールするのに使われた言語です。アプリケーションを再起動せずにユーザーを変更した場合、以前の言語が維持されます。そのため、ダイアログボックスが希望する言語で表示されない可能性があります。これを避けるには、Access PE に再度ログインします。

Access PE は次の言語で実行できます。

- 英語
- ドイツ語
- フランス語
- 日本語
- ロシア語
- ポーランド語
- 中国語 ( 中国 )
- オランダ語
- スペイン語
- ポルトガル語 ( ブラジル )

**注記!**



機器名、ラベル、モデル、ユーザー権限スキーマなどのすべてのファシリティは、入力された言語で表示されます。同様に、オペレーティングシステムが制御するボタンやラベルは、オペレーティングシステムの言語で表示されます。

[ パスワードの変更 ] ボタンをクリックしたら、次のダイアログでユーザー名とパスワードを入力します。

Change password

New password

Confirmation

Ok Cancel



**注記!**

パスワードは必ず変更してください。

[ アプリケーションの起動 ] ボタンはユーザーの権限を確認し、それに基づいてアプリケーションを起動します。システムがログインを認証できない場合、次のエラーメッセージが表示されます: 「ユーザー名またはパスワードが間違っています!」

## 3 Video Verification

ビデオ確認を使用すると、カードと承認データをチェックすることにより、立ち入り許可を求めている人が実際にカードの所有者であることを確認できます。

### 注記!



少なくとも 1 つの入口でビデオ確認を有効にした ( PE Configurator > [ 入口 ] > 編集する入口を選択 > [ ビデオ設定 ] を使用 ) 場合は、[ ビデオ確認 ] ダイアログを少なくとも 1 台のワークステーションで開始する必要があります。そうしない場合、すべてのアクセス要求が拒否されます。

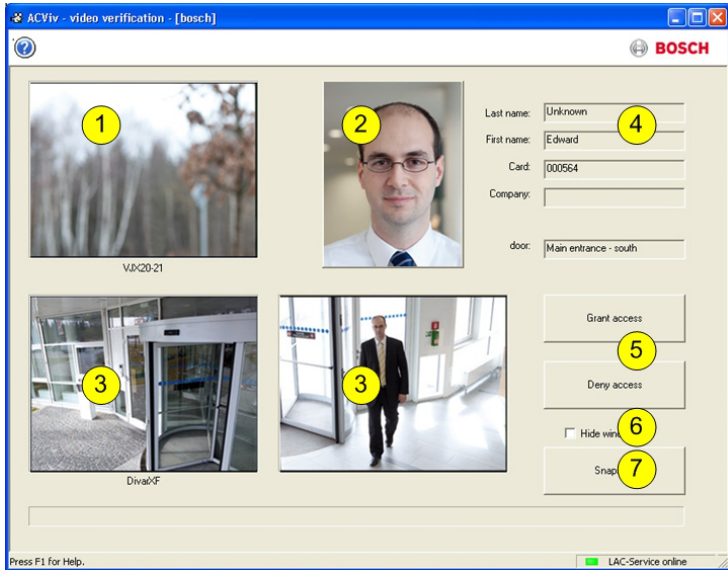
ビデオシステムの設置時には、ビデオシステムをより有用で多用途にする追加のファシリティが Personnel Management で有効化されません。

### 関連項目

- ビデオ確認, ページ 9







1 =	識別カメラ - 立ち入り許可を求めている人のライブ画像を伝達します。
2 =	データベース画像 - ライブ画像との比較のために表示されるアーカイブ画像。
3 =	監視カメラ - 背面ビューを示すカメラが最初に表示されます。ドアが解錠されると、表示は次に前面ビューカメラに切り替わります。
4 =	人事データ - スキャンされたカード番号についてデータベースに保存されているデータが表示されます。
5 =	アクセス権の付与 / アクセスの拒否 - 当該のドアを解錠または施錠するためのボタン。
6 =	ウィンドウを非表示 - ビデオ確認が正常に完了した後でダイアログを閉じます。ダイアログは、次にアクセス要求が行われたときに最前面に戻ります。
7 =	スナップショット - 3つのカメラビューすべての静止画像をローカルに保存します。

## 要件

ライブ画像とアーカイブ画像を比較することによって実行されるこのチェックを有効にするには、次のファシリティが必要です。

- カード所有者の画像がデータベースに保存されている。
- 立ち入り許可を求めている人の顔画像を作成できるようにカメラが設置されている。
- 立ち入り許可を求めている人の後ろのエリアを記録する最大 2 台のカメラ ( オプション )。
- ドアを通過するエリアを記録する最大 2 台のカメラ ( オプション )。
- ドア設定
  - [ ビデオ確認ありの入口 ] としてマークします。
  - ビデオ確認を [ アクティブ ] に設定します。
  - 機器を識別カメラとして使用するよう選択します。
  - オプション — 背面または前面エリアを監視するその他のカメラ。
- 少なくとも 1 台の常時有人ワークステーションで、**Video Verification** アプリケーションがインストールされて起動しています。

これは、複数のワークステーションで同時に実行できます。ただし、処理の重複や矛盾を避けるため、受信したアクセス要求は 1 台のワークステーションにのみ送信されます。

## 許可された人物のアクセス手順

1. 人物がカードをスキャンする
  - カードデータがチェックされる
  - 承認がチェックされる
2. Video Verification アプリケーションが接続される  
使用可能で構成済みである場合は次の情報が表示される
  - 左上：識別カメラからのライブ画像
  - その右側：カード所有者のアーカイブ画像
  - その右側：カード所有者のデータ — 姓、名、カードおよび会社に加え、その人物が待機中の入口
  - 左下：背面エリア用の最初の監視カメラからのライブ画像

- その右側：背面エリア用の 2 番目の監視カメラからのライブ画像
3. ワークステーションユーザー
    - ライブ画像がアーカイブ画像と一致することを確認し、監視カメラの記録をチェックします。
    - 比較とチェックの結果に応じてアクセスを許可 / 拒否します。
  4. Video Verification アプリケーション
    - ドアが解錠されると、監視カメラからの下の 2 つの表示は次に前面エリアを監視するカメラに切り替わります。この画像は、ドアが閉じられるまで画面に表示されます。

**注記!**

表示されたカメラ画像の静止画像をいつでも何個でもローカルに保存できます。[ スナップショット ] ボタンを押すと、各ビデオの画像が保存されます。

**ダイアログの有効化**

ビデオ確認ダイアログを起動した後、デフォルトの表示に切り替わります。この状態のとき、データの編集やダイアログの処理を行うことはできません。ビデオ確認用に構成されて有効化された入口で、許可された人物が立ち入り許可を求めると、設置済みのカメラの画像とデータベースからの対応するデータが表示されます。

要求が出されたときにワークステーションで別のアプリケーションを使用しており、[ ビデオ確認 ] ダイアログが背面に隠れていた場合は、この時点でダイアログが自動的に最前面に表示されます。

アクセス要求の処理が完了すると、ダイアログビューはデフォルトに切り替わりますが、最前面に残ります。

この設定を希望しない場合は、[ ウィンドウを非表示 ] オプションを選択して、各確認プロセスの後でダイアログを自動的に最小化できます ( タスクバーにアイコン化します )。また、このオプションでは新しい要求を受信するたびにダイアログが最前面に表示されます。

### 3.1.1 ビデオ確認のオン / オフ

( 機器ステータスリストにある ) 入口 / リーダーのコンテキストメニューには、[ ビデオ確認の無効化 ] という機能もあります。

これにより、たとえばアクセス要求処理を一時的な短縮化することができます。逆に、構成を変更せずにビデオ確認を迅速に有効化することもできます。

ビデオ確認をオフにすると、コンテキストメニュー内の対応するエントリにチェックマークが付けられます。

この機能は、構成データでビデオ確認を有効化した入口にのみ使用できます。

ビデオ確認の有効化 / 無効化は LAC サービスによって制御されます。情報がすべてのワークステーションに配布されるため、どのシステムからでもこの設定を変更できます。

## 4 UL 294 要件

以下の Bosch モデルカードリーダーは、UL によって Bosch の APE-SW ソフトウェアシステムとの互換性が評価されました。

- LECTUS secure 1000 WI
- LECTUS secure 4000 WI
- LECTUS secure 5000 WI

**UL** によって評価される機能：

- 26 ビット Wiegand フォーマットリーダー
- AMC2 コントローラ：
  - APC-AMC2-4WCF
  - API-AMC2-4WE
  - API-AMC2-8IOE
  - API-AMC2-16IOE
- APE-SW は補足監視機器

**UL** によって評価されない機能：

- ビデオ確認システム
- マップおよびビデオ確認を備えたマップビューアーとアラーム管理
- ビデオプレーヤー
- Badge Designer
- Delta 1200 シリーズ
- Rosslare ARD-1200EM シリーズ
- LAC コントローラ
- LACi コントローラ
- APC-AMC2-4R4CF コントローラ
  - BG 900 リーダーインターフェイスプロトコル
  - L-BUS リーダーインターフェイスプロトコル
- Security System IDS - 作動/作動解除
- エレベーター用
- テキスト
- 盗難警報機用



**Bosch Access Systems GmbH**

Charlottenburger Allee 50

52068 Aachen

Germany

**[www.boschsecurity.com](http://www.boschsecurity.com)**

© Bosch Access Systems GmbH, 2017